学年別分散登校挨拶

2020 年 7 月 6 日

みなさん、おはようございます。

前回の遠隔授業開始のメッセージは文章でしたが、今日は声による挨拶です。

1 年生と 5 年生は 6 月 8 日から、2 年生と 4 年生は 6 月 22 日から対面授業を 2 週間行いました。今日から 3 年生の対面授業を行います。みなさんには長く待ってもらいました。これまで、8 週間、遠隔授業を頑張ってくれてありがとうございます。

みなさんは対面授業を待ちかねたと思います。長く待ってもらいましたので、期待とともに不安もあると思います。学習面でも生活面でも、不安や困難は何でも言ってきてください。

この対面授業では、遠隔授業では難しかった実験・実習を主に行いますが、座学の授業も対面授業を入れていきます。先生の顔が見えないので聞きにくかったり、文章で伝えるのが難しかった質問もできます。ぜひたくさん質問してください。

遠隔授業が始まる前、本校の先生方にお願いしたことがあります。学生が学校に来られないこの機会に、先生方に考えてほしいこととして、「学校に通学する意義は何だろうか」、「学校教育の本質的役割とは何だろうか」を挙げました。これは 4 月 14 日の新聞の教育欄に載っていた問です。識者の言葉として、『現代の学校は、知識を教えることに加え、人と人との対話を通じて、集団の中で生きる身のこなし方を学ぶ場でもある。社会で食べていける大人になるためには、非常に重要です。遠隔授業の中でも、人との交わりに配慮した柔軟な教育が望まれます。』と紹介されていました。

そのとき私の考えたことは、本校の教育は、座学と実験・実習を通じて理論と技術の基礎を使えるところまで身につける教育なのだが、“座学はオンライン授業でできるかな”、“学校は実験・実習するために必要で、そのときは対面授業になるな”、“学校の意義は、装置・器具と友達になるところかな”、と考えていました。

3 年生のみなさんが登校するまで、他の学年が登校してきて、学生達を見ていると気が付いたことがあります。授業の間の休み時間は、「社会的距離（山中伸弥

先生は“思いやり距離”と言っています）」を私が心配するほど、みんなは話に夢中です。放課後も学生たちは集まって話をしています。新聞記事の識者の方の言われていた「人との交わり」に飢えているのを感じました。

遠隔授業開始のときの私からのメッセージの最後に、「にぎやかに学校を再開し、早くみなさんに会えることを願っています。」と書きましたが、無意識のうちに、みなさんが学校にいるのはにぎやかで、エネルギーに満ちていることを感じていたのだと思います。“学校へ通学する意義”は友と交わることであり、“学校教育の本質的役割”は場所と時間を友達と共有することなんじゃないかと思いました。

２年生と４年生の学年別分散登校の挨拶で、寺田寅彦先生の「正当にこわがる」という言葉を紹介しました。新型コロナウイルス感染症に対して、正当にこわがって、我々が心がけることは、「感染に対して自分が気を付けることが、他人のためにもなり、他人が安全になることで、自分の安全も強固になる」ということを意識して行動することだと思います。

自分ができる予防はしっかりやります。手洗い、咳エチケット、３ つの密を避ける、 運動・食事・休養・睡眠の調和のとれた生活を続ける、まめに換気する、毎日の健康観察とその記録、などです。

山中伸弥先生による新型コロナウイルス情報発信というホームページに「マスクの重要性」という記事があります。ということは、マスクをしていないときに、より注意が必要ですということです。食事のときはマスクを外さなければなりません。それで、食事のときは黙々と食事をしてください。おしゃべりしながらの食事は楽しく、本来のホモ・サピエンスの自然な行動なのですが、しばらくの間、食事は黙々とお願いします。

また、この“感染症”の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながることです。差別や偏見のもととなる「不安」を解消するために、公的機関が提供する情報を得ることや、悪い情報ばかりに目を向けないこと、そして差別的な言動に同調しないことが大切です。

私たち一人一人が心掛けて行動しましょう。

それでは、体を慣らしながら、対面授業に取り組んでください。